



立教大学

ラーニングアドバイザー 制度について

立教大学	法学研究科	和田武士
	法学研究科	乙幡翔太郎
	観光学研究科	澁谷和樹

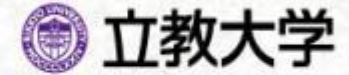
目次

1. アドバイザーの視点
 - i. ラーニングアドバイザー今昔(和田)
 - ii. 池袋(乙幡)
 - iii. 新座(澁谷)
2. 課題・問題意識

アドバイザーの視点

ラーニングアドバイザー今昔

(和田)

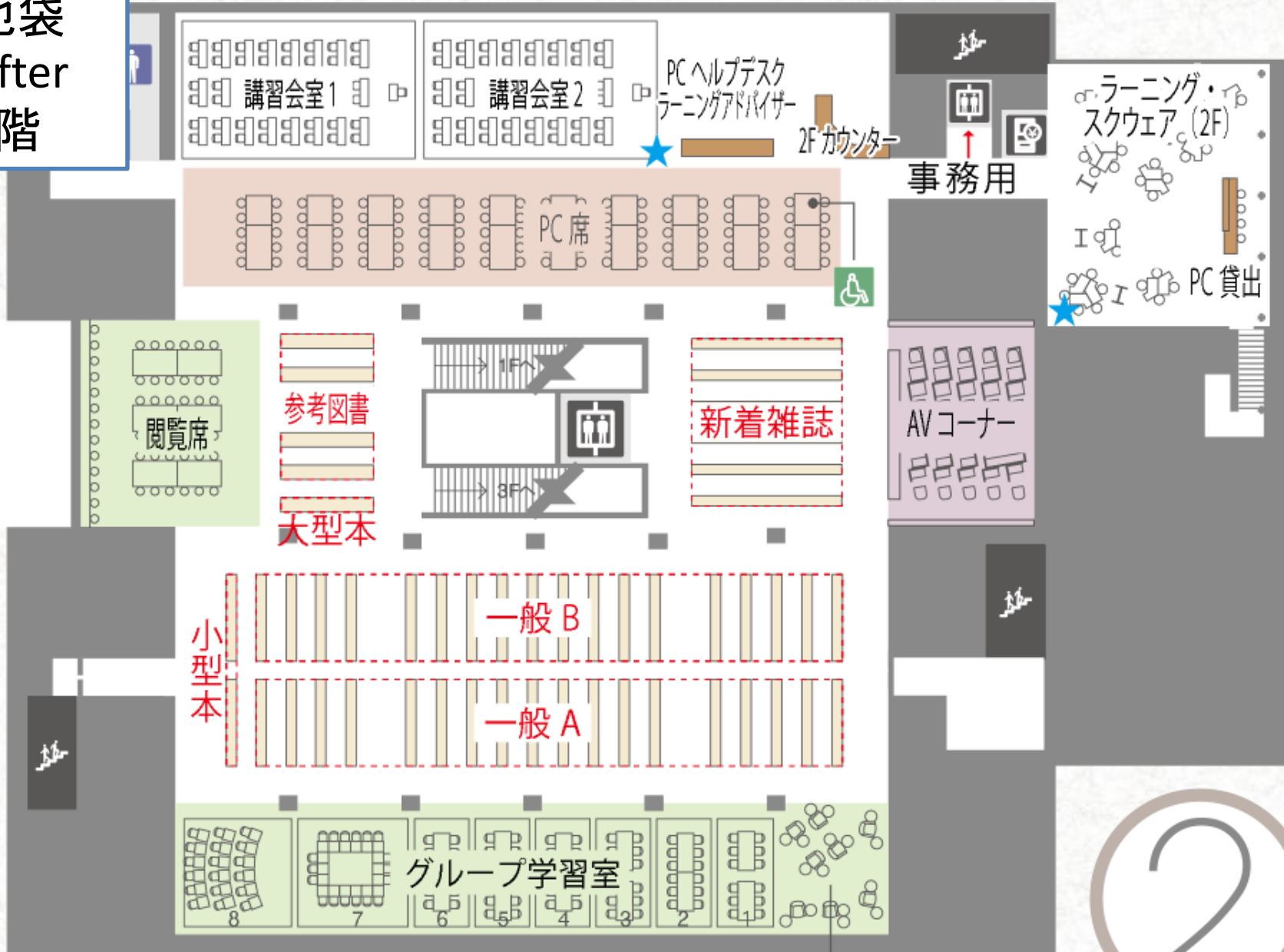


- 従来: 利用しにくい場所で活動
 - 図書館案内に掲載されないほどアクセスしにくい場所(池袋)
 - 図書館入口直近というあまりにもアクセスしやすい場所(新座)
- 現在: 利用しやすい場所で活動中
 - 気軽にアクセスできるようになった(池袋・新座)
- 「[Googleマップ ストリートビューで池袋図書館内を公開 | 立教大学](#)」参照(池袋のみ)

池袋
Before
本館
旧館
1階



池袋
After
2階



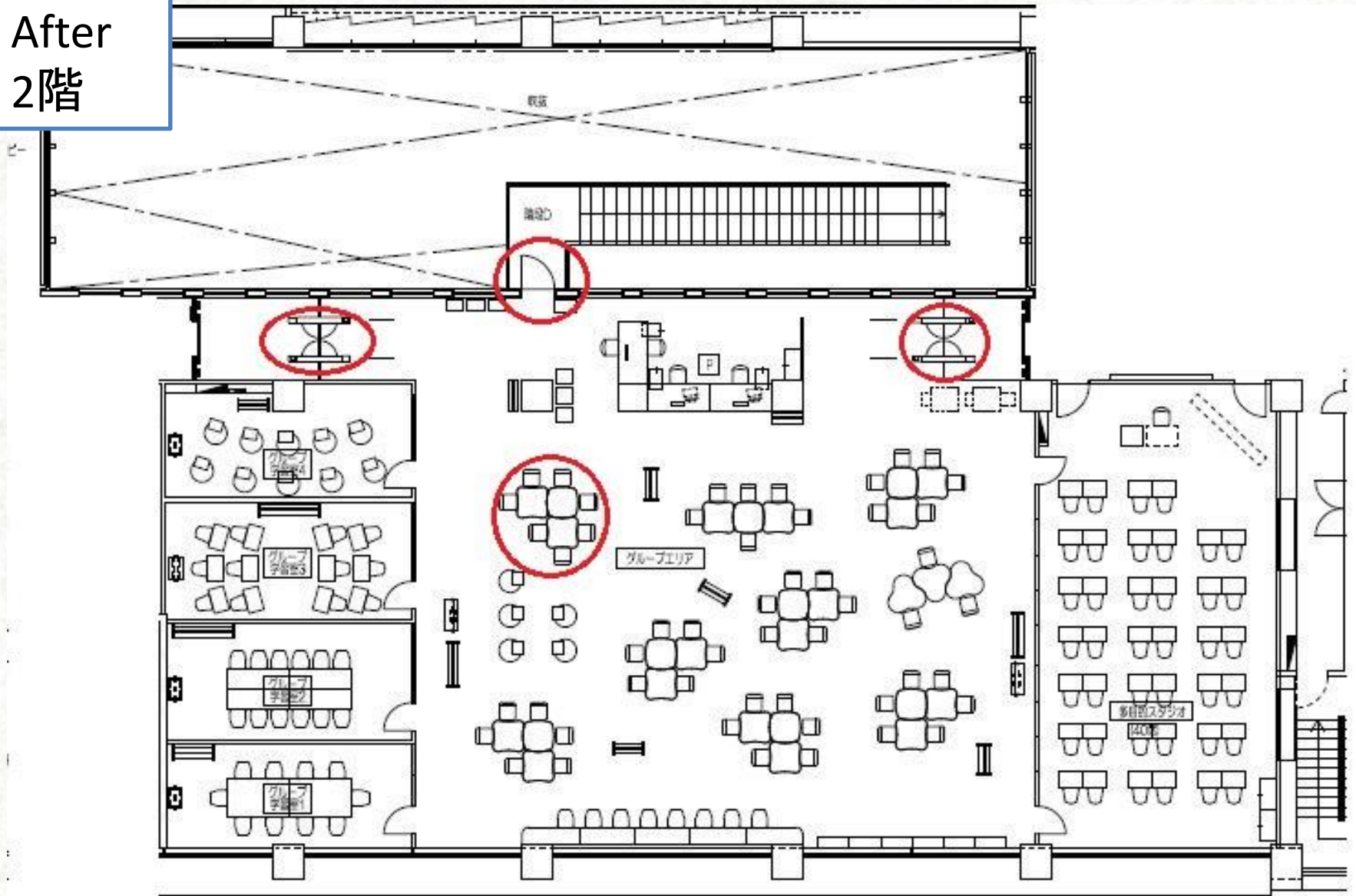
閲覧ラウンジ

学生協働ワークショップin東京2014～大学図書館における学生協働の拡がり～

新座
Before
1階



新座
After
2階



【特徴】

- 所属研究科を表に出さず、レポートに関する様々な質問に対応
- 相談者の3分の1以上が1年生
(2013年度164人中73人)
- 質問の多くが、「レポートって何?」「どう書いたらいいか?」という基礎的なもの

池袋(乙幡)

【相談にあたっての苦労】

- レポートとは何か、という質問に答えることのむずかしさ
一つの答えが出ると思っている。単なる関心をどう学問的関心にもっていか。(例)和食が健康に良いことを証明したい
- 自分の意見を根拠づける、信頼できる情報がわからない
安易なネット情報の活用、自分の主張を根拠づけるものとしてなぜ、その情報が必要かが答えられない。(例)ニーチェのある概念について調べて、論じなさい⇒どこかの大学生が書いてネット上にアップしていた授業メモから引用⇒大学名があるから信用

新座（澁谷）

【特徴】

- 現代心理学部の相談者の多さ

（2013年度新座図書館：323人中191人）

- 相談内容

：実験調査実習の統計解析、卒業論文の統計
～統計の専門知識を要求

→現代心理学研究科ラーニングアドバイザーの紹介
連絡ノートによるラーニングアドバイザー間の連携

新座（澁谷）

【レポート対応での苦勞】

• 多岐に及ぶレポートテーマへの対応

—観光学部：観光地理学の現地調査

現代心理学部：内経図の読み解き

コミュニティ福祉学部：コミュニティ政策の比較

• 学部生の興味・関心を出発点としたレポート指導

—観光学部ゼミ選考共通課題：研究計画

例：ボランティアツーリズム、ゆるキャラ、鉄道の観光活用

⇒興味・関心をいかに研究課題・研究方法の設定へと導くか。



学際的研究機関・観光学研究科での経験の活用

課題・問題意識

今後の課題

- 相談者自身による考察を助力する
 - レポート課題に関して
 - 学生に要求されていることは何か
 - 活用すべき文献資料は何か
 - 研究課題の設定に関して
 - 文献資料の収集に関して
 - 検索データベースをいかなる場合に使用すべきか
- 多様な相談に関して柔軟に対応する
- 学生に対して当該活動を周知する

問題意識

- 担当者自身が利益を得ることを自覚する
 - 担当者自身の教育活動が促進される
 - 担当者自身の研究活動が促進される
- 教育活動と当該活動の関係に注意を払う
 - 従来：教育活動に積極的には関与しない
 - 将来：教育活動に積極的に関与する？
 - 学習支援の立場から教育活動に直接関与する立場へ？
 - 「今後の課題」を再考する可能性がある

参考資料

- 文部科学省. “大学図書館における先進的な取り組みの実践例—大学の学習・教育・研究活動の質的充実と向上のために—: 文部科学省”. 文部科学省.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/attach/1314099.htm,
(参照 2014-07-28).
- 立教大学立教GP委員会. 立教大学教育活動推進助成(立教GP)2009年度活動報告. 立教大学立教GP委員会, 2011, 49p.